

事例16

< 事例概要 >

人工股関節全置換術（両側）

① 60 歳代、体重不明の患者。

② 両側変形性股関節症に対し、両側人工股関節全置換術を施行。

③ 血圧90 mmHg台となり、自己血を投与し、昇圧薬を数回投与。さらに回収式自己血輸血も投与。術中出血量1,200 mℓ。息苦しさや腰痛の訴えあり。退室時血圧80 mmHg台、心拍数100 回/分台。

④ 病棟帰室直後、末梢冷感あり、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）測定不能。息苦しさや腰痛・腹痛の訴えあり、体位調整するが改善なし。Hb 11 g/dℓ 台。約1 時間後、意識消失。Hb 9 g/dℓ 台。下顎呼吸となり、気管挿管。約2 時間後、造影CT で骨盤内の血腫が疑われ、ICU転棟。約4 時間後、血管造影で動脈損傷なし。約7 時間後、ドレーン出血量約600 mℓ。赤血球液、新鮮凍結血漿、濃厚血小板を投与したが、術後2 日目に死亡。

⑤ 死因は、血管損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）有（骨盤内血腫）、解剖有（外腸骨静脈の損傷）。